

けんこうばんらい

健康万来



阿波踊り歴数十年様
徳島県在住



離れて
ビオで繋がる
親子の和

福島県在住
松本様より



酷暑で体力が落ちている今、変異株、その他
日頃聞きなれない健康障害も増えています。
ここで、低分子ならではの「酵素力」、どのよう
な状況でもお試し、お続けてくださいませ。
お客様との48年は生きています。

大変な状況ではありますが、「健康第一」でお
互い頑張りましょう。

NSP新美健
代表 中島盛雄

「」案内

- 休業日前後は、ご注文発送共に混雑し、
在庫状況によってはご希望に添えかねる場合も予想されますので、ご用命の際は予め
余裕をお持ちになりますようお願い申し
上げます。特に道路事情の悪化等も予想
されますのでお気を付けください。
- 休業期間のご注文は、当社公式サイトまた
は留守番電話およびFAXから承ります。
発送は翌営業日以降に順次行います。
定期購入ご利用のお客様は通常通りお届
け申し上げます。
- その他ご不明の点は、別途お問い合わせく
ださいませ。



発行元: NSP新美健ビオチーム普及センター
〒980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町1-1-74藤原ビル1階

0120-151-970 <https://www.nsp-kouso.jp>
nsp@kouso.name @nsp_kouso

発行元の許可なく無断複製・転載・再配布を固く禁止致します。

記録的な酷暑、豪雨のこの夏ですが、如何お
過ごしでしょうか。

日頃は格別の御引立てを賜りまして、誠に有
り難うございます。
お陰様で毎日の健康パートナーとして、お役
に立てます様、着実に歩ませて戴いておりま
す。

暑中お見舞い申し上げます

八十を
超えて職場に
期待され



東京都在住
子育て二周目様



夏季休業期間について「」案内
誠に勝手ながら左記「」案内のように、休業期
間の営業スケジュールを「」案内申し上げます
ので、何卒ご一読願います。

8月12日【月】(営業日)

8月13日【火】(休業日)

8月14日【水】(休業日)

8月15日【木】(休業日)

8月16日【金】(休業日)

8月17日【土】(営業日)

お知らせ

「J愛飲者様の「?」にお答えします。

ビオチームQ&A



時々ですが味が違うような気がするのは自分だけでしょうか。もしかして気のせいですか?

(サバサンド様)

味の変化については以前も「案内したと思いますが、決して氣のせいではないと思います。味に違いを感じる理由がちゃんとありますので、このことについてお話をします。

大きな理由は発酵熟成に関係

まず、以前も「案内済みですので、似たような内容になってしまつ」とを「理解ください。

係しています。これは日本酒などを作る場合に一部似ているところがあり、同じ原材料と環境のもとで製造しているにも関わらず、違ができるのは酵母や酵素は生物であるということです。

ビオチームの工場のように、環境が整っていても難しいのです。

J安心ください

ビオチームの場合、基本的に発酵から熟成までおおよそ半年程度時間を要しますが、これはあくまで基準であり、一定量の酵素量が生成されない限りは製品として世に出回る事は一切ありませんので「安心ください」。



【写真上】熟成中の酵素原液
【写真下】完成品の検査風景

(H)

まとめ

いかかでしようか。

新酵素飲料ビオチームは、食品衛生法に定める高温殺菌にも耐える特長を持つていますので、お客様のお手元に届いてる瞬間も常に熟成を続けています。

ですので、製造時の味とお手元に届く時点とでは味に違いが生じる場合がありますが、生きている酵素が届いている証拠もあります。

どうぞこれからも「付き合いください。

(H)

酵素製造の敵は「四季」?

ビオチームの製造工場は外部とは遮断された製造環境を整え温度管理を徹底していますが、それでも発酵熟成具合に差が生じる理由について、数年前に新工場を見学に大分へ出向き、対応していただいた当時の工場長がおっしゃった「最終的には人間の五感に頼るところが大きい」という言葉が印象的でした。

四季がはつきりしている我が日本ですが、春夏秋冬ある四季の違いが酵素つくりにはある意味“敵”なのかもしれません。もちろん四季がなければ季節ごとの恩恵を受けることは出来なくなりますので、無くなってしまうのは困りますが…。

鎌田三之助を見習え



一部の国会議員の裏金問題が表面化してから久しいが、結局のところ一部議員が起訴されたのみで、大多数の議員は大したお咎めもなく幕引きになつた。この時思い出したのが、以前も会報誌内で紹介した「故・鎌田三之助」。宮城県民であればほぼ知らない人はいない、旧鹿島台村(現大崎市鹿島台)の村長である。品井沼(しないぬま)干拓に人生の多くを捧げ、大雨が降ると大洪水となる品井沼の水を、松島湾へと排出するため、潜穴を作り際の費用を自ら負担、同時に38年間の任期期間一切給料を貰わず、破れた帽子につきはぎだらけの衣服、そしてわらじ履きのスタイルで村内を歩く姿から「わらじ村長」と呼ばれ、多くの村民から尊敬の念が絶えなかつた。

現在、国会議員バッヂを受けた人々の中に、わらじ村長のよう尊敬の念を抱かれる人物は果たしてどの程度いるだろうか。

国会議員に限らず、議員といわれる重責に就いている人物は、自身の行動が胸を張り国民に言えるものかを改めて考え、故・鎌田三之助を見習つてほしいものである。

(H)

